

ブック

本書は、次期学習指導要領改訂に向けた議論の参考に供されることになっている。本書の背景には、「誰も正解がわからな

い世界で、みんなが少しずつ考

えや知恵を持ち寄って、答えを

作り出し、それを

現実適用し

た結果も見守り

ながら、より良

い答えを求め

る」という、「持

続可能な社会」

に向けた時代認

識がある。大人

も子供も一人一

人が自分なりの

考えを持って、

人と対話し、協

働しながら、新

しい考えを創造

する力が必要と

いうのだ。

本書は、教科、

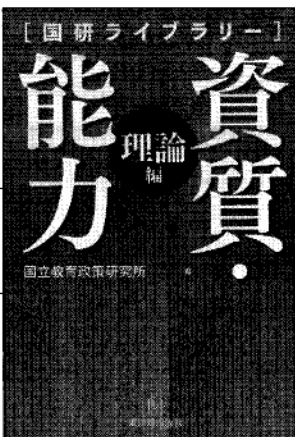
道徳・特活、

体育の「分業モ

デル」を超えた

「知・徳・体」

や、「まずは知識



資質・能力[理論編]

「知」「徳」「体」を一体化させる授業とは？

国立教育政策研究所 編

2160円 東洋館出版社

☎03-3823-9205

この教育理念に基づく目標の融合」など、たとえアクティブラーニングにおいても、目標、内容、方法、評価という教育の根本を貫くための理論が示されている。

評者は、社会的協働を念頭に入れない競争主義に偏った過去の能力主義教育と、その批判の繰り返しは不毛であったと考えている。その意味で、個人の充

実とともに、家庭、職業、地域生活を通して社会形成者としても充実した人生を送るための必要能力を、達成目標として理論化しようとする本書の存在価値は大きい。ただし、変化しようのないはずの「資質」を、本書では「能力」とつねにセットで扱っている点については、個人的には気になる。資質は良くも悪くも、その人らしさそのものではないのか。青少年一人一人が、個を社会に生かして、充実した生涯を送るための能力構造に焦点化した議論を望みたい。

(聖徳大学教授・西村美東士)